

文化勲章について



文化勲章は、1937(昭和12)年に制定されました。

勲章のデザインは、橘(ミカンの木)の五つの花びらのまんなかに三つ巴(日本の伝統的な模様)の曲玉(日本で古くからつかわれているアクセサリ)がかいてあります。

その上の鈕にも橘の実と葉がつくられています。常緑樹(葉が落ちない木)である橘は、平安京(794年)の頃から京都御所紫宸殿の南庭に植えられ、古くから大切にされています。その木が長く続いていること、年月が経っても変わらないことが、文化が限りなく変わらないことに似ているということで、デザインになったと言われています。

また受勲されるのは、文化(芸術や科学技術)などの発展・向上に貢献された方です。

出品作家では牛島憲之、圓鐔勝三、奥田元宋、荻須高德、小林和作、野見山暁治
平櫛田中、平山郁夫、棟方志功が受勲されています。

紫宸殿とは京都御所の正殿で、天皇の即位式、立太子礼などの最重要儀式が執り行われた最も格式の高い建物です。



う こん たちばな
右近の橘

きょう と ご しょ し しん でん
京都御所紫宸殿